



ハンドボール部 第39回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会出場

もくじ

呉高専の将来に向けて	(校長 森野 数博) …1
呉高専のキャリア教育	(教務主事 森脇 武夫) …2
平成24年度学生会役員研修セミナーを実施して	(学生主事 宇根 俊範) …2
新入寮生への指導について	(寮務主事 高津 康幸) …3

トピックス

・人事交流を終えて	(機械工学分野 岩本 英久) …3
・オードリィさんとの思い出	(建築学科2年 西川 美帆) …4
・留学するという事	(機械工学科3年 中澤 裕基) …4
・おもしろ科学体験フェスティバル	(教務主事補 井上 浩孝) …5
・高専女子ブランド発信プロジェクトで	高専女子百科Jr. 呉高専版を作成 (専攻科建設工学専攻2年 寺本 絵美) …5
・2012年度 夏の学校見学会	(教務主事補 井上 浩孝) …6
・高専女子学生による情報発信！女子中学生なんでも相談会	(教務主事補 佐々木伸子) …6
・球技大会について	(学生主事補 加納 誠二) …7
・2年連続で全国高等専門学校体育大会第3位に入賞	(剣道部顧問 加納 誠二) …7
・専攻科1年生「インターンシップ事前研修会」	(専攻科機械系コース担任 野村 高広) …8
・1年生導入科目「技術者入門」	(キャリア教育推進室長 林 和彦) …8
・安全標語受賞者の表彰式	(人事係長 鳥山 剛) …9

新任教員紹介

・着任のご挨拶	(人文社会系分野 市崎 一章) …9
・就任のご挨拶	(自然科学系分野 北村 光一) …10
・就任にあたって	(電気情報工学分野 外谷 昭洋) …10

国際交流

・「国際交流パーティー」のひとコマから留学生の出身校紹介	(国際交流室長 竹内 準一) …11
・家族が1番！	(里親会代表 海生 郁子) …11

市民セミナー

・金子みすずと八木重吉	(人文社会系分野 外村 彰) …12
・市民セミナー「マイうちわづくり」	(建築学分野 大和 義昭) …12
・河川工学	(環境都市工学分野 黒川 岳司) …13
・これで夏休みの宿題はバッチリ！光る多面体 ーオリジナルデザインの照明工作教室	(建築学分野 篠部 裕) …13

嶺陽寮

・寮生活	(専攻科機械電気工学専攻1年) …14
・初めての寮生活	(専攻科建設工学専攻1年) …14

学生相談室から

・学生相談室のもう一つの使い方	(学生相談室長 岩城 裕之) …15
・カウンセラー講話報告	(学生相談室長 岩城 裕之) …15
第48回中国地区高等専門学校体育大会成績	…16
安全・安心な食堂運営について	(寮食堂・学生食堂・売店 店長 志磨 徹也) …17
環境整備工事が完了しました	(総務課) …18

呉高専の将来に向けて

校長 森野 数博

「Realize Your Dream」



呉高専に着任することになり、本校のホームページをみて、すぐに目についてメッセージがこれでした。「君の未来を共に創る」飛行機を夢見て紙飛行機を

飛ばしていた子供が、大きくなって呉高専に入り、勉学に励み、大人になり技術者として飛行機を作るという夢を実現する。

呉高専のめざすところは、このキャッチフレーズとイラストに凝縮されていると思います。

そのベースとなる二つの教育理念が、昨年度新たに定められました。ひとつは、開発研究とものづくりの現場を結ぶ「ものづくりの中核技術者」を育成すること、他のひとつは、人類の幸福に貢献するため「豊かな人間性と確かな技術力を持ち自ら学び続ける人材」を育成すること。理念が明確なため、あとは具体的にこれをどう実現するかだけ。しかし、これがなかなか難しい・・・

昨年度、理念と合わせて全学統一の「学習・教育目標」が定められましたが、その具体的な到達目標を明確にすることがキーポイントであろうと考えています。そして、その実現に向けてカリキュラムを再構築する。具体的にめざすべき目標がより明確になれば、学生の意識も変わるでしょうし、より効果的なカリキュラムを組むことでモチベーションも上がるだろうと。現に、今年度から1年次に導入

した「技術者入門」は好評を得ており、いまがその時期かな、と思っています。



「技術者入門」授業の様子

これらのことを通じ、教育機関の王道である「いい学生を育てる」学校をめざしたい。入学した学生すべてに満足感を与え、社会からも揺るぎなき高評価を得ることで、関係者一同が所属することに誇りをもてる学校にする。そして、「呉高専の学生が欲しい」と言ってもらえる学校を、みなさんと協力しながら実現したいと思っています。



学校案内

呉高専のキャリア教育

教務主事 森脇 武夫

呉高専では今年の4月から1年生の授業として「技術者入門」という科目を新設しました。この科目は、中学校と勉強の仕方が大きく違う高専で、これから5年間で勉強する内容を大雑把に掴み、技術者になるために必要な知識と能力を理解し、その後の高専生活でこれらを獲得するための動機付けとするもので、本校におけるキャリア教育のスタート科目です。なお、この技術者入門の実施状況については、本校のホームページの「呉高専日誌」で詳しく紹介されています。

キャリア教育とは、ニート等で代表されるような学校から社会・職業へのスムーズな移行ができていないことへの対応として、文部科学省が「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」として平成23年に新たに定義し直したもので、キャリア教育で育成する主要能力として、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を上げています。

一方、卒業生を受け入れる側である産業界からの視点として、経済産業省が平成18年に「職場や社会の中で多様な人々と共に仕事をしていくために必要な基礎的な力」として「社会人基礎力」の概念を発表しています。社会人基礎力は、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力という3つの力と、それを構成する主体性、課題発見力、発信力などの12の具体的な能力です。（経済産業省編：社会人基礎力育成の手引き、朝日新聞出版）

これらの能力は、公共心、倫理感、基礎的マナーなどの人間性、基本的な生活習慣を基盤として、読み書き・計算などの基礎学力と仕事に必要な専門知識・技能と一体となって社会人として活躍するために必要な能力です。本校においても、基礎学力と専門知識だけでなく、「人間力」とも呼ばれるこれらの能力を身に付けるキャリア教育を、技術者入門などの授業科目を設けて、一層の充実を図っています。

平成24年度学生会役員研修セミナーを実施して

学生主事 宇根 俊範

学生主事に就任して以来、長年開催したいと思っていたことがようやく実現の運びとなりました。



例年、新年度の忙しい時期に新旧学生会のメンバーを集めて、それぞれの部署で引継ぎを行っていたのですが、もちろんそれだけ

では充分と言えず、現状は各役員にお任せの状態でした。とくに5月初旬に開催される学生総会までには、前年度の決算を終え、また新年度の予算を組むという大変な作業があり、これを正確に実行するためには学生会執行部のメンバーそれぞれが学生会についての詳細を熟知していなければならず、1時間程度の引継ぎ作業だけでは到底無理があり、今回のような1泊2日の研修ではじめて可能となりました。研修内容は学生会則、学生会予算、各委員会の仕事、学生会行事など学生会に関することについて全員で真剣に話し合いました。

途中、遠藤校長(当時)にも加わっていただき、また後援会からは後援会長はじめ3名の方にも参加いただきました。夜は和室で昼の議論の続きとメンバーの親睦をはかってリレーションで盛り上がりました。

とにかく初めてのことで、問題点はいろいろありましたが、新旧学生会メンバーの真剣な討議や意見交換で大変実りある二日間になったように思います。今後の学生会活動の活性化の第一歩となるに違いありません。



新入寮生への指導について

寮務主事 高津 康幸

今年度から寮務主事を拝命しました機械工学分野の高津と申します。今後ともご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今年は、新入生 55 名が親元を離れ、嶺陽寮での新たな生活のスタートを切りました。新入寮生は新たな生活スタイルの期待に胸を膨らませる一方、寮生活に対する一抹の不安も拭いきれないものと思います。そこで、新入寮生が 1 日でも早く寮生活に慣れるように、スタッフ（寮務主事補 5 名、寮務委員 5 名、学生生活支援係 4 名）およびライフマスター（生活指導する上級生）が指導しています。

寮では、3 年生までは 2 人部屋での共同生活となります。入寮時の部屋割りは無作為に行ったものであるため、相部屋の学生との相性が気にかかります。そこで、入寮後 1 ヶ月経過したところで、新入寮生全員に対して面談を実施しました。寮生活に慣れたかななどの近況報告が主なものでしたが、ホームシックやいじめなどにも気を配りました。新入寮生への面談は保護者の方からも好評で、寮生保護者懇談会では多数の方から面談内容についての問い合わせがありました。

共同生活における規律（規則）の順守やマナー（礼儀作法）などについては、ライフマスターが、毎週木曜日にミーティングを実施し、徹底的に指導しています。ライフマスターによる厳しさと優しさを兼ね備えた指導のおかげで、新入寮生は気持ちが良いほど大きな声であいさつをしてくれます。

学校・家庭が人間形成の場であるように、寮という場所も人間形成に大きな役割を担っています。保護者の方々もご心配のことと拝察しますが、どうか暖かい目で見守り、お子様の成長に期待してください。

人事交流を終えて

機械工学分野 岩本 英久



昨年度は徳山高専の機械電気工学科に配置替えとなりました。授業は、ベンチャービジネス論（5 年）、創造演習（1 年、3 年）、創造

製作（4 年）および特別講義（医用工学概論、5 年）などを受け持ちました。徳山高専のカリキュラムは、メカトロ技術で創造性を育むことができるように体系づけられていました。4 年生の創造製作では自由な発想で「ものづくり」を行い、学生たちは成功体験（達成感）を得ていました。この教育効果は、さらなる知的好奇心を刺激し、勉学と研究に勤しむ雰囲気を醸成していました。

私の校務は総合企画室主務、テクノリフレッシュ教育センター参事、サテライト運営委員会委員などでした。教務、学生指導や寮務運営などは呉高専と同じところもあれば違うところもあり、大変貴重な経験となりました。県内には徳山高専の他に宇部高専と大島商船高専があり、学校説明会などで連携していました。写真に示すように、夏には山口県内 3 高専合同で広島県廿日市市のショッピングモールで PR イベントを行いました。

周南市の商店街には徳山高専のサテライトオフィス（夢広場）があり、イングリッシュルームやパソコン若葉工房などで地域の人たちと毎週のように交流していました。教職員はボランティア精神に満ち溢れ、いろんなプロジェクトを協調して取り組んでいました。今回の人事交流により、他高専との連携や学内の協働意識の重要性を再認識することができました。

最後に、機械電気工学科の先生方や事務の方々との交流は何物にも代えられない財産となりました。今年の夏の中国地区高専体育大会で徳山高専会場に引率する機会がありました。その会場で徳山高専の先生や事務の方々に声をかけていただきました。まさに第二の故郷のような印象です。1 年間という短い期間でしたが、本当にありがとうございました。徳山高専での経験は、呉高専、呉地域や全高専のために発揮したいと思います。

オードリーさんの思い出

建築学科 2年 西川 美帆



私たち、2年建築のクラスは、昨年9月から今年6月13日までの10ヶ月間をアメリカからの留学生、オードリー・ルネー・ベヤデンさんと一緒に過ごしました。私たちは、日々の授業や学校行事などをオードリーさんと共にして、たくさんの思い出ができました。

勉強面では、オードリーさんは化学が好きなようで、実験のときも楽しそうにしていました。設計製図などの建築の専門授業は、少し難しかったようです。また英語の授業では、先生方がオードリーさんに正しい発音を教えてもらうなど、とても頼りにされていました。

クラスの中では、みんな積極的にオードリーさんに話しかけていました。うまく伝わらないこともありましたが、外国人と話すということに対する緊張感が、みんな少しほぐれたと思います。

オードリーさんをクラスに迎えて、私たちのクラスはみんな、留学するというをより身近に感じられたのではないかと思います。私自身、留学に対する気持ちが変わり、機会があったら海外留学してみたいと思うようになりました。

オードリーさんが私たちのクラスにいた時間は、あっという間だった気がします。しかし、この10か月間はオードリーさんと私たち、お互いにとって貴重な期間でした。オードリーさんは、この留学を経てさらに日本に興味を持ってくれたらしく、アメリカの大学でも日本のことを勉強してまたいつか日本に来たい、と言っていました。オードリーさんのように、この経験は私たちのこれからの将来において、ひとつの大きな力になると思います。

留学するということ

機械工学科 3年 中澤 裕基

2011年8月から1年間アメリカ、ミズーリ州セントルイスに留学をしていて、この7月に一年間が無事に終わり日本に帰ってきました。

僕はこの一年間ホームステイをしながらアメリカの高校へ通っていて、とてもつらく、しかしとても楽しい毎日過ごしました。



アメリカに渡って三ヶ月、四ヶ月は本当につらかったです。しかし、このつらかった思いが留学での一番の成果だと思います。努力をすること、いろんな新しいことにチャレンジすること、恐れずにたずねること。すべて、ここから得た教訓だと思います。

留学するという、それは世界に目を向けること。それは自分が日本を代表すること。それは世界中に友達を作ること。それは世界に平和をもたらすこと。それは自分の生まれ育った国、日本を見つめなおすということ。

そして、自分がしてきたことを見つめなおし、経験を踏まえて新しい自分に生まれ変わることだと思います。世界にはいろいろな価値観があるんだということを知るため、そして自分自身の視野を広げるためにも皆さんにはもっと留学をしてほしいと思います。きっと、もっと世界が広がるはずです。



おもしろ科学体験フェスティバル

教務主事補 井上 浩孝

6月17日（日）10時から16時まで、呉市中通商店街（通称：れんが通り）にて、昨年引き続き、おもしろ科学体験フェスティバルを盛大に開催しました。

呉高専ロボコン部が3年前に全国大会に出場し、準優勝したロボット「かめさんロボ」や2年前に全国大会に出場し、スピードと馬力を兼ね備えた名馬「アーリーヴェ」、部内ロボコンで製作した対戦型ロボットの操作・試乗体験や、吹奏楽部の3回の演奏会、呉高専の説明ブースと機械工学科・電気情報工学科・環境都市工学科・建築学科の学科展示ブースで盛大なイベントとなりました。前日の雨天から一変し、好天に恵まれ、多くの方々に足を止めて頂きました。また、呉市近郊の中学校に配布したチラシをみて呉高専に興味を持ってくれた中学生も呉市内はもとより、東広島市、遠くは竹原や海田から来てくれました。

最後になりましたが、呉中通商店街振興組合の皆様、ポポロ様には企画立案から会場の提供まで何かと大変お世話になりました。おかげさまでイベントは昨年引き続き大成功でした。ありがとうございました。



ロボット操縦体験の様子

高専女子ブランド発信プロジェクトで 高専女子百科 Jr. 呉高専版を作成

専攻科建設工学専攻 2年 寺本 絵美



今日、特に理工系分野の女性の進出が遅れているそうです。数の少ない女性技術者だけでなく女子高専生も知名度の低さが問題視されています。この現状を打破するために、全国9高専が連携して「全国高専女子ブランド発信プロジェクト」が昨年度から始まりました。2010年は8高専の女子学生が連携して高専女子の能力を紹介する「高専女子百科」を作成して「高専女子フォーラム」で発表をしました。今年は中学生向けの「高専女子百科 Jr. 版」を9高専で作成します。呉高専以外の高専が作成するための見本として「呉高専版プロトタイプ」を作成しました。

私たちは、学科紹介と学生生活に着目し、中学生とその保護者が欲しい情報を女子学生目線で盛り込みました。こうして、呉高専版は8月2日に完成、5日の学校説明会で配布しました。モニタアンケートでは「学生生活の楽しそうな様子がわかった」など明るいイメージの回答をいただき、編集スタッフが議論して考えた内容が伝わったようです。そして、同月20・21日に大阪で行われた「学生リーダー合宿」にて実際に作成した時のスケジュールやコンテンツ、そして作成の注意点などを発表しました。今後は、呉高専版を参考に、残りの8高専がオリジナルの高専女子百科 Jr. を作成する予定です。

呉高専や連携校の学生スタッフは大変な作業をしていますが、自分たちのことを情報発信していくことの大切さを実感しています。

2012年度夏の学校見学会

教務主事補 井上 浩孝



全体説明会の様子

8月5日（日）、学校見学会が本校で開催され、昨年を上回る589名の中学生、保護者、教員のみなさまにご参加いただきました。

まず、全体説明会が行われ、森野校長のあいさつに続いて森脇教務主事より本校の全体説明がありました。その後、希望者は学校内の各学科や施設を回るキャンパスツアーやクラブ活動を見学するツアーに参加したり、興味のある学科や施設に行き、担当の教員や学生から各学科で行う勉強内容や実験・実習の内容、将来の進路などに関する説明を熱心に聞いていただきました。暑い中でしたが、中学生の皆さんには呉高専の内容と良さを実感して、受験の参考にしていただければ幸いです。

アンケートの結果では、学科展示やクラブ活動見学ツアーで学生さんの生の声が聞けて良かった。ますます呉高専に進学したい気持ちが強くなったとの感想を多数頂きました。

最後になりましたが、暑い中、学校見学会にご参加いただきましたみなさま、各学科の展示のサポートやクラブ活動の紹介をしてくれた本校学生のみなさん、学校見学会にご尽力いただきました教職員のみなさまに感謝いたします。

高専女子学生による情報発信！ 女子中学生なんでも相談会

教務主事補 佐々木伸子

8月5日に行われた学校見学会の企画として高専女子学生による女子中学生のためのなんでも相談会を開きました。これは、女子の少ない高専で女子の学生生活について心配が多いことから、疑問に思っていることを高専女子学生と直接話して不安を解消してもらおうという目的です。とはいえ、ただ話すのも緊張して話にくいもの。そこでLEDを使った電気工作とフェルト手芸をやりながら話すというスタイルをとっています。高専生に教えてもらいながら、学校のことを話します。30分くらいでおいしそうなLEDかき氷やLEDアイスクリームができあがりました。

この企画は昨年引き続き3回目です。今年は相談会に参加した中学生に、「高専女子百科 Jr. 呉高専版」を配布しました。これは女子中学生向けに呉高専の紹介をしたものですが呉高専の女子学生が考えてつくったものです。また、昨年度全国8高専の女子学生が連携して作成した「高専女子百科」のポスターを掲示して、全国の高専女子の数や進路、学生生活をみてもらいました。保護者の方からは、知らなかった情報が沢山ありとても参考になったとの言葉をいただきました。

まだまだ技術者をめざす女子学生は少ないですが、今は性別に関係なく個性を活かすことができる時代です。自分が持つ可能性を伸ばせる進路を選んでほしいですね。



球技大会について

学生主事補 加納 誠二

5月8日に球技大会が開催されました。今年は五月晴れの良い天気の中、ソフトボール、ミニサッカー、バレーボール、バスケットボールの4種目で学級別の対抗試合が行われました。

下の写真は各競技の様子です。初戦から気合いのこもった熱戦が繰り広げられていました。



各競技の優勝チームはソフトボール C4、ミニサッカー C3、バレーボール E5、バスケットボール A5 となりました。第4位以内に入賞したクラスの多くはやはり高学年でしたが、C1はミニサッカー3位、バスケットボールで4位と大健闘していました。

総合優勝は C3、準優勝 E5、第三位 C5 でした。

負けたチームの学生諸君も、次回の大会では良い成績が収められる様、時間を見つけて練習を積んでください。

2年連続で全国高等専門学校体育大会 第3位に入賞

剣道部顧問 加納 誠二

8月26日鳥取県立武道館で行われた、第47回全国高等専門学校体育大会剣道競技団体戦、個人戦に出場し、団体戦では3位に入賞することが



できました。この大会に先立ち、7月7日、8日に行われた中国地区大会では3年連続で優勝することができ、全国大会に出場するのはこれで5年連続ということになりました。

1次予選リーグは呉高専、熊本高専（熊本）茨城高専の3校リーグ戦でした。実力が伯仲し、各校とも1勝1敗で並びましたが、茨城高専戦を5-0で勝利した我が校が、勝者数で他校を上回り、準決勝に進出しました。

準決勝は2年前の決勝で敗れた鈴鹿高専との対決となりました。選手諸君は雪辱を晴らすべく奮闘しましたが、1-3で敗れてしまいました。

個人戦には機械工学科3年の佐藤大志君が出場し、奮戦しましたが、残念ながら一回戦で敗退してしまいました。

今大会には泊野外部コーチも遠征に帯同いただきました。また、愛媛大学の西先生（元剣道部顧問）や、多くの保護者も応援に駆け付けていただきました。皆様の温かい声援が学生たちの励みになっているものと思います。非常にありがたいことです。

また、剣道部では、今年度から岩城先生に代わり、新たに自然科学系分野の北村先生を顧問に迎えました。北村先生は長く高校で剣道部を指導された経験をお持ちで、剣道部の指導体制が整ってきた感じがあります。将来が非常に楽しみです。

来年度は鶴岡高専で開催されます。大会終了後、来年こそは雪辱を果たし、悲願の優勝カップを持って帰ると部員一同と誓い合ったところです。今後とも暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

専攻科 1 年生

「インターンシップ事前研修会」

専攻科機械系コース担任 野村 高広

専攻科 1 年生は、夏休みを利用して、企業・大学・研究所・公的機関などで 2～8 週間のインターンシップを経験します。その事前勉強として、7 月 6 日（金）の一日を使い、新人教育を専門とする 2 名の外部講師による研修会を開催しました。

インターンシップで何をしたいのか、どうすれば有意義な内容になるのか、学生自身あるいはグループの中で考え、お互いの共通点を整理し、その結果を皆の前で発表し討論を行いました。また、社会人としてのマナーやビジネスコミュニケーションについても、グループ演習を通して確認し合いました。インターンシップに行く前に、各自のやるべき事柄が明確になったことと思います。

インターンシップは、学生にしかできない貴重な体験です。しっかり事前の準備をして、実務経験を楽しんでください。

<研修会の講師>

亀井 隆佳 先生

(呉信用金庫 人づくりセンター グループマネージャー)

溝上 裕二 先生

(ジョンソンコントロールズ株式会社 ディレクター)



グループ演習の結果を発表している様子

1 年生導入科目「技術者入門」

キャリア教育推進室長 林 和彦

1 年生にとっては、高専の生活は全てが中学校とは異なり、毎日が新しいことの連続です。知り合いのいないクラス、未体験の専門の授業、自主性を求められる生活態度など、入学したての 1 年生は、日々の生活に自分を適応させながら、未知の勉強に取り組みなければなりません。このような状況の中、1 年生において学校生活に戸惑いを抱く学生が多く見受けられるようになりました。そのため、1 年生が高専での学校生活をスムーズに営めるように、導入科目の必要性が 2 年前から議論され、本年度から「技術者入門」として授業に取り入れられました。

授業は、前期科目として全学科で実施しました。授業には大きく 2 つの狙いがありました。1 つ目は、「勉強の動機付け」を行うことです。そのためには、新入生が将来の自分に対する期待値を上げ、今後の高専生活が楽しみになることが大切であると考えて、学生の意識が、(現状把握) → (将来像の認識) → (今すべきことの認識) となるように授業の内容を構成しました。2 つ目は、学校での友達・居場所をつくることです。このことは、学生が安定した学校生活を営むための土台となります。そこで授業では、コミュニケーションを重ねながら完遂できるグループワークの課題を多く取り入れ、学生同士が知り合いになれる機会を多くしました。

今回初めて実施した「技術者入門」でしたが、学生の授業の取り組み態度や表情、アンケートの結果を見ると、概ね授業の狙いは達成できたと感じています。しかし、この授業は、「高専の歩き方」を示したオリエンテーションに過ぎません。本当の成果は、学生の今後の学習態度によって示されるものと考えています。学生は今回の授業で学んだことが活かされる場面に今後多々遭遇しますので、学んだ知識を有効に活用して下さい。充実した高専生活を営めることを期待しています。

安全標語受賞者の表彰式

総務課庶務室人事係長 鳥山 剛

平成24年7月17日(火)、平成24年度安全標語受賞者の表彰式を校長室で執り行いました。

表彰式では、植田安全衛生委員会委員長、森脇教務主事、藤井准教授及び吉川講師の立会いの下、森野校長から受賞者3名の学生に対して、賞状が贈られました。

安全標語は、安全衛生に対する意識向上を図ることを目的として、安全衛生委員会が毎年4年生の学生を対象に募集しているものです。

今年度は、104件の応募があり、安全衛生委員会委員の投票により選考した結果、以下の3名の学生を表彰しました。

各受賞者

【1位】

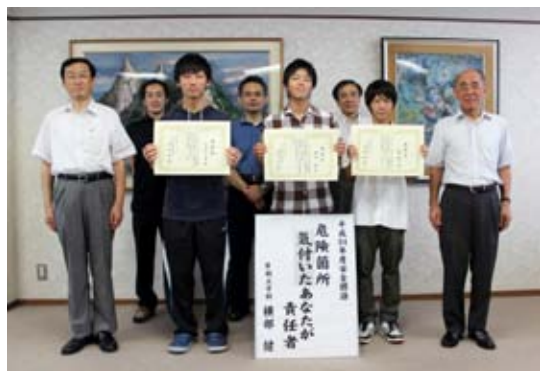
危険箇所 気付いたあなたが 責任者
(平成24年度 安全標語)
機械工学科 4年生 横部 健さん

【2位】

忘れるな 過信と油断が 事故のもと
電気情報工学科 4年生 大久保 忠君さん

【3位】

まあいいか 心のゆるみが 事故のもと
電気情報工学科 4年生 松岡 航平さん



着任のご挨拶

人文社会系分野 市崎 一章

はじめまして、今春より、英語教官として着任いたしました、香川県出身のいちざき かずあきと申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

子ども時代、日曜日に放映されていた「兼高かおる世界の旅」(50代以上の方は懐かしい?)の影響からか、大人になったら是非、世界のいろんなところに行ってみたいと思うようになりました。そして、学部時代に出会った3人の先生方の影響で、大学の英語教師、英語学、特に音声学に興味を湧きました。3年時に米国の田舎大学に1年間留学したのですが、New York Cityの大学で受けた夏季講習は忘れられません。



外気温が43度に達する中、エアコンの故障した寮住まい。連日「食パン+

ポロニアハム+ウォータークーラーの水」の食生活。毎朝鼻血を出しながら、試験前日は19時間の詰め込みという、まさに体力勝負の6週間でした。下手の横好きでしたが、小学校時代から水泳、陸上、サッカーと体育系クラブに属していたのが役に立ったのではと思います。無事すべて単位が取れて、街を離れる時は、毎歩3mでスキップしている気分でした。「若い時の苦勞は買ってでもせよ」と言われますが、まさにその通りです。あの時以来、きついと思うことはなくなりました。

短大での二十余年の教歴を経て高専に来ましたが、高専生は、能力と素直さに溢れています。頑張るのは、頑張れるのは今です。勉学に、クラブ活動に、大いに励みましょう。必ず将来の糧となるはずです。微力ですが、私も全力でサポートします。

就任のご挨拶

自然科学系分野 北村 光一

平成24年4月1日付で呉高専に着任した自然科学系分野准教授(数学)の北村光一です。

私は約30年間、滋賀の県立高等学校で数学科教員として勤務してきました。この間、教育現場の実践と理論との両立を目指して、内地留学(社会人として大学院)へ進学し、教育実践の成果を理論的に構築するために努力を積み重ねてきました。これまでの主たる研究として、多様化した生徒の実態に応じた学習指導により生徒の基礎学力の定着を図ってきました。

最近の研究としては、日中の数学教育として、学生が授業に主体的に参画できる数学科授業モデルを開発し、その有効性について検証しています。



中国貴州省数学科教員研修

今年4月より本校で1年の建築学科、及び2年の全学科(4学科)で数学を担当しております。本校の学生は、情意面では学習意欲や集中力に優れており、認知面においても数学に関する基礎的な知識や技能を兼ね備えています。もう少し欲を言えば、態度面において、自ら考え、より主体的に判断・行動できる学生が一人でも多く増えることを願っております。今後は、論理的思考や表現・伝達力の育成を重視した主体的学習に繋がる数学授業設計と実践に取り組んでいく所存です。

本校のクラブ活動では、剣道部顧問を担当しております。これまでは、剣道(四段)や居合道(六段)を取得して小・中・高校生の指導に携わってきました。微力ながらクラブの目標達成(全国大会優勝)の一助になりたいと思います。

本校で、教育や研究に携わる機会をいただき、大変嬉しく思うとの同時に支えてくださった多くの方々に本当に心より感謝申し上げます。今後もこれまでの経験を活かして全力投球で頑張りたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

就任にあたって

電気情報工学分野 外谷 昭洋



平成24年4月に電気情報工学分野・助教に着任いたしました外谷

昭洋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は松江高専本科および専攻科を卒業後、広島大学で大学院、研究員時代を過ごし、本校に着任させていただきました。

高専時代はロボットを作る学科にいたこともあり、電気工学や情報工学のみならず、機械工学や制御工学まで幅広く勉強をしておりました。また、当時の先生方からは専門知識のみならず、部活動などの課外活動を通して様々なことを経験させていただきました。呉高専においてもいろいろな活動を通して、微力ながら学生の成長にかかわっていただけたいと思っております。

広島大学時代は、携帯電話やパソコンの主要部品にも使われている半導体集積回路を中心に勉強をしておりました。また、留学を通して海外で先端的な技術を学ぶ機会もいただいておりますので、学生にも基礎的な専門知識のほかに、国際的かつ先端的な知識を学ぶ機会を提供できたいと思っております。

着任して4か月がたちました。教員の立場で過ごさせていただいて、学生時代とは違った雰囲気を感じるとともに、改めて高専生の能力の高さと将来性を感じております。

加えて、私の高専時代がそうであったように、個々の学生にとって、重要な5年間であると思っております。まだまだ1年目で学ばせていただくことも多いですが、先生として、高専の先輩として、学生一人一人が最高の時間を送り、社会へ出るための準備が十分にできるよう、全力でサポートさせていただきたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

「国際交流パーティー」のひとつコマから 留学生の出身校紹介

国際交流室長 竹内 準一

昨年度から留学生の出身国にまつわることを紹介してもらい趣向を凝らしています。今年度は「出身校」を紹介してもらいました。

アティラさんは、マレーシアにある自然科学系のカレッジから呉高専へ来ました。



化学の教室でしょうか？ピペットを手にし、英語らしき化学のテキストも見えます。



ト一君が出たラオスの高校には、「熊本」という名前を冠した寮もあるそうです。何と、同寮は日本人が作ってくれたそうなのです。ト一君の仲間たちとの愉快的スナップです。

国が違くと、教育も違ってくるものです。私は欧州出身者らが集う研究室にいたことがあります。答えを覚える勉強はカンニングに当たると指摘されショックを受けました。

せっかく呉高専には留学生がいます。是非、留学生たちが、出身校でどのような教育を受けてきたのか、話をしてみることをお勧めしたいです。見聞が広まること請け合いです

家族が一番！

里親会代表 海生 郁子

呉高専には、5名の留学生（インド・マレーシア各1名、ラオス3名）を12家族で支援している「留学生里親会」があります。

以前、交流の参考とするため、アンケートをした際、「尊敬する人は誰？」という項目への回答は、全員「両親」、「食べたい料理は？」は「お母さんの料理」でした。我が身を振り返って、我が家の息子達は、迷わずこのように答えてくれるだろうか??? 多忙な生活、変化の早い社会の中で、本来の家族のあり方や、思いやりの心をとにかく忘れがちであることを、留学生との交流の中で気付かされるが多々あります。



また、ある留学生に、「日本では、近所同士で集まってお喋りをしないのですか。」と、尋ねられたことがあります。

東南アジアに行くと、何所でも、老若男女を問わず、群れあって談笑する光景がありますが、今の日本では、あまり目にしなくなりました。

留学生にとっては、「技術大国」日本ですが、反面、人間関係が希薄になっているのも事実で、もっと濃い人との触れ合いの中で育った彼らには、淋しく思えるようです。里親会家族が、陰ながら、いつでも支えになりたいと思っていることを、行事を通して感じて欲しいと思っています。



同時に、私達自身が、家族のあり方、本当に大切な物は何かを考える多くの貴重な機会を与えてもらっている気がします。

金子みすずと八木重吉 (市民セミナーから)

人文社会系分野 外村 彰

去る7月14日(土)、本学視聴覚教室で呉高専市民セミナー「金子みすずと八木重吉—童謡詩と純粹詩—」を催行しました。聴講者は19名で、中国新聞の記者も取材に来ました。呉市内のほか尾道(御調)から来たという女性もいらっしやり、少々驚きでした。

金子みすずは、テレビドラマなどにもとりあげられるほど、日本の詩人ではポピュラーです。しかし生前は山口県の本屋に勤め、児童雑誌に投稿していたアマチュア詩人でした。彼女の詩は、子どものうたうような童謡詩です。けれども、平易な言葉の奥に思いがけない深さを湛えています。私は彼女を「目にみえないものの大切さ」を見つめようとした詩人だと紹介しました。たとえば心とか、絆とか、生きがいは目に見えません。しかし本当に大切なものほど、目には見えない。そうしたものごとを気づかせてくれる、豊かな心を持った詩人であることを、様々な詩を読みときながら解説しました。

八木重吉は、金子みすずと同じ大正期を生きて、みすずと同様、早逝した詩人です。英語の先生をしていて、敬虔なキリスト教徒だったので、その詩にはどこか、信仰告白のような趣がうかがえます。彼の詩はみなごく短く、そのぶん書かれていない感覚や感情を読みとることが大切になってきます。私は重吉ほどの純粹な詩を書く人を知りません。ほんの二、三行の詩句が胸にせつなく響きます。そうした透明感を伝えるよう心がけて、重吉の詩を読みすすめました。

さて詩は理屈でなく、感性で読むものです。行間の奥行きなり書かれなかったところから余韻を感じとることは、芸術の鑑賞にとっても必要です。呉高専の皆さんも、できればそうした世界にふれ、人間としての振れ幅を広げていってほしいと願います。

市民セミナー「マイうちわづくり」

建築学分野 大和 義昭

夏の暑い時期に街を歩いて宣伝用のうちわをもらったことはあると思います。そんなうちわが家にたくさんあるよ、という方も多いでしょう。「扇いで風がくればうちわなんて何でもよい」と思われる方も多いかもしれませんが、いえいえ、もし自分で作った世界で一つのマイうちわからの風なら、きっと涼しさも別格なはず。暑い節電の夏をマイうちわの涼風でしのいでもらおう、とこの企画を思い立ちました。

当日は梅雨のあいまの晴れでかなり蒸し暑い一日となりましたが、7組20人近くの方々に、本校建築学科模型製作室でマイうちわづくりを体験してもらいました。うちわは市販の骨に紙を貼付けるのですが、本企画では参加者の皆さんに「マーブリング(墨流し)」で模様をつけた和紙を使用しました。



参加者のほとんどの方がマーブリング初体験ということで、お手伝いする私や学生達も少し緊張してしまいました。特に、模様をつけた和紙を水からあげるときに紙が破れてしまうことが多かったのですが、皆さんは負けじと次々にチャレンジなさって、一つ、二つとたくさんのおうちわを作っておられました。

「楽しかった」という感想や「家ではなかなかできない経験ができてよかった」という感想もいただきました。そう言われると、来年もしてみたくくなります。その際は是非ご参加ください。

河川工学 (市民セミナーから)

環境都市工学分野 黒川 岳司

7月28日(土)10:00~12:30に市民セミナー「河川工学」を環境都市工学科4年生の教室で開催しました。セミナーの正式名は、『呉高専 環境都市工学科の専門授業を体験しよう 授業:「河川工学」』で、中学生以上で、「河川」に興味のある方に幅広く参加してもらいたいというセミナーのねらい通り、中学生とその保護者、それに高齢の一般市民の方までとても幅広い年齢構成で、9名の方々にご参加頂きました。

内容は、環境都市工学科の第4学年で開講している「河川工学」をベースとしたものです。授業の「河川工学」は、工学的な側面から技術者としての「河川」との付き合い方を学ぶもので、週2時間の講義・演習を1年間かけて学んでいます。しかし、今回のセミナーはわずか2時間ちょっとで、伝えられることはごくわずかです。そこで、河川技術者の視点・工学的な観点に立って、河川を多面的に見て、感じてもらい、我々にとっても身近な存在である川にさらに興味を持ってもらい、一般住民としてより上手な川との付き合い方ができるようになることを目標として、人と川とのかかわりについての説明に始まり、治水(河川災害から身を守る)、利水(水を賢く使う)、環境に配慮した川づくりなどについて、河川工学の歴史、河川に関する法律、地形や水循環、日本や広島の川の特徴、近年の異常気象との関係などから、時々クイズのような問い掛けをしながら、様々なお話をさせてもらいました。

セミナーの最後に、簡単な実験として、川底が上がるのに水面は下がるとい



うちょっと不思議な流れの現象を見てもらいましたが、今回の参加者で最高齢の方にも興味深そうに見て頂けたのが印象的で、今回のセミナーを開催して良かったと感じる瞬間でした。今回のセミナーで、少しでも、川の面白さ、恐ろしさ、そして大切さが伝わっていればうれしいです。

これで夏休みの宿題はバッチリ! 光る多面体ーオリジナルデザインの照明工作教室

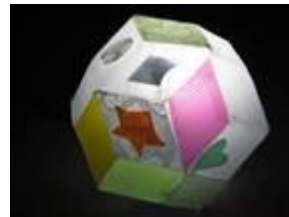
建築学分野 篠部 裕

8月17日(土)の午後1時~4時までの3時間、小学生や中学生を対象とした市民セミナー(工作教室)を開催しました。



展開部品図をもとにセードを製作参加者は、小学生29名、中学生13名の計42名で、呉市以外の広島市などからも10名の参加がありました。この市民セミナーは、呉高専で建築を学ぶ学生(13名)が授業で身に付けた模型製作のノウハウを活かし、小学生や中学生の夏休みの工作をお手伝いするというものです。

今回はプラダン養生シート(厚さ2.5mm)という材料を使って、菱形30面体の形をしたオリジナル照明を



作りしました。この材料は、建築では主に新築の建物の壁の養生(表面を傷付けないよう保護する目的)で使用

される材料で、ホーム

センターなどで簡単に入手できます。カッター(あるいはハサミ)で簡単に切断でき、浅い切れ目を表面に入れて折り曲げることで立体的な加工もできます。照明器具は、ランプなどの電気部品部分とセード(傘)部分の主に2つから構成されますが、今回の工作教室では照明のセード部分を作りしました。こちらが予め用意しておいた菱形30面体の展開部品図をもとに製作し、菱形30面体の各面(ひし形)に各自の好みの色紙やカラーセロファンなど(こちらの材料は100円ショップで安価で入手可能)を使って仕上げるというものです。

照明コンセントとLEDランプの電気部品は学校側が用意・提供しましたが、セード部分は、参加者が自由に仕上げ材料を選択し、オリジナルの彩りをもつ照明器具を作りしました。学生が分かりやすく、丁寧に教えてくれたこともあり、参加者が満足できるオリジナルデザインの照明が42個完成しました。参加頂いた児童・生徒・保護者の皆さん、手伝ってくれた建築学科の学生の皆さんご苦労様でした。

寮生活

専攻科機械電気工学専攻1年

僕が呉高専の学生寮で生活するようになり5年と半年経ちました。ずいぶん長いようで短い時間だったと思います。最初の1年は4寮で過ごし、その後4年間は2寮で過ごし、現在は6寮で生活しています。1年生の頃に比べると寮では様々な変化があったと思います。例えば僕が2寮にいる間に4寮は改修工事が行われ入口の位置やトイレ、洗面所が変わりました。他にもゴミ捨て場の位置が変わったり、各部屋に鍵がついたり、寮食の業者が変わったりと多くの変化があったと思います。

さて、僕は今年度から6寮で生活しているわけですが本科、つまり4寮や2寮にいた時と最も変わったのは、点呼がなくなったということや、日中でも寮に入ることができるということ等、ある程度自由な生活を送ることができるということです。

専攻科ではいろいろ忙しいことも多く、このような自由は非常にありがたいことだと思っています。これだけ自由であるにもかかわらず寮生活が成り立っているのは僕たちが今までの寮生活の中で他人との過ごし方や、ルールを守るということ等をきちんと学んできたからだと思っています。寮生活を通して、他人と過ごす上での最低限のルールを身につけてきたからこそ今の生活があるのだと思います。寮ではいろいろ不自由な点がありますが、このようなことを学ぶことができるのは寮生活の最大のメリットではないかと思っています。

寮では楽しいことばかりでなく辛いこともたくさんありますが寮で生活することができて良かったと思っています。

初めての寮生活

専攻科建設工学専攻1年

私は4月に仙台の実家から引越し、嶺陽寮で寮生活を送っています。私は専攻科生なので、女子留学生と同じ建物で暮らしています。留学生はとても気さくで、互いの母国のことや呉高専でのことなどたくさん話をしています。また、各自母国料理をつくり、皆で夕食を楽しんだこともありました。留学生と一緒に生活することで、それぞれの国の文化を知ることが出来て、とても楽しく、そして勉強になっています。



インドネシア、ラオス、日本の料理

寮の食堂に入ると、寮食の方々がいつも元気に話しかけてくれます。ご飯は、朝はバイキング形式で、夕食は主食が2つから選べるようになっています。一人暮らしだと栄養が偏りがちですが、寮食は栄養を考えて作ってくれているおかげで、私はいつも健康でいることができています。

仙台の学校にいた頃は通学生だったため、入寮前、寮はどんなところなのか想像もつかず、期待もありましたが不安もありました。ですが、私は嶺陽寮に来て、とても良かったと思っています。寮生歴としては一番後輩ですが、これからあと1年半で、頼られる先輩になりたいです。

学生相談室のもう一つの使い方

学生相談室長 岩城 裕之

高専に在学している5年間で、学生相談室にまったく縁がなかったという学生も多いだろう。学生相談室でカウンセリングを受けるということが「特別なこと」になっているからだ。

もちろん、学生相談室の主な役割は悩み事相談。例えば、「学校に行きづらい」「家庭のことで大変」「友人関係でトラブルになった」「就職活動がうまくいかない」などである。最近では保護者の方からの相談もある。カウンセラーさんの来校日も増え、相談できるチャンスが増えたこともあって、悩み事相談の件数は増えてきた。ストレスの多い世の中を反映していることもあるかもしれない。

その一方で、カウンセリングを「特別なこと」と思うのはもったいないように思う。1年生から3年生まで学生相談室でカウンセラー講話を行っているのは、カウンセリングのもう一つの使い方の入り口である。

人の一生の中で高専時代は長くはない。社会で生きていくためには「ストレス耐性を持つ」ことや「心の動きを見つめる」こと、そして「自分の傾向を知る」ことが大切になる。最近のトレンドは「人間関係の上手なコントロール方法」も含まれる。こういった技術や知恵は、きっと一生使える技術・知恵になるはずなのだ。そこで、カウンセラーさんにこれらの知恵を聞いてみるためにカウンセリングを受けるという手もある。ぜひ気軽に訪ねてみてほしい。

学生相談室の心理教育、ということなのだが、ぜひこういう視点でも相談室を利用してほしいと思うし、カウンセラー講話にはこんな意味があるということも知っていただければ幸いである。

学生相談室のもう一つの使い方、それは、一生使える知恵を伝授してもらうことなのです。

カウンセラー講話報告

学生相談室長 岩城 裕之

「学生相談室のもう一つの使い方」でも書いたが、学生相談室の目的の一つに生きる知恵を伝えることがある。本来は一人ひとり性格も違い、環境も違うため、オーダーメイドが一番なのだが、まずは全体の話としてカウンセラー講話を実施している。

1年生では「ストレスや不安のかわし方」。中学校から高専へと環境も大きく変わり、戸惑いもあるだろう。本校カウンセラーの宮村先生に講話をいただいた。嫌な気持ちになったときは、それを消そうとしたり解消しようとしなくていいことが大切だということをお話しいただいた。不安を感じたら逃げずにいること、「ああ、不安なんだな」と思いながら不安とうまく付き合うことで、自然に不安が解消していくという話だった。何事も、力技はよくないようだ。

3年生では「社会や仕事と自分をつなぐ」ことをテーマに、やはり心の平安（健康？）を保つコツをお話しいただいた。学生時代と社会人では、要求されることも評価の基準も、大きく変わってくる。あらかじめ知っておくことで心の準備をする、ということであった。

さて、2年生では外部の講師をお招きして、ワークショップを実施した。毎年2年生ではデートDVや人権がテーマになっている。学校にも慣れ、人間関係の緊張がほどけてくる時期にあって、人づきあいのコツを学んでもらえたら、ということであった。

ところで、学生の皆さんならお気づきだと思うが、カウンセラー講話の実施形態が各学年で違っている。1年生ではカウンセラーさんの顔を覚えてもらおうということで2クラス合同、2年生はワークショップ形式のためクラスごと、3年生は全体。テーマや現状に合わせて実施形態を考えているのだ。

この他にも、教職員対象の講話も行っている。オトナも勉強、なのである。

○第48回中国地区高等専門学校体育大会成績

期日 平成24年7月6日(金)～7月8日(日)

会場 徳山・宇部・大島

成 績

【団 体 戦】

種目		順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
陸上競技			徳山	松江	呉	津山	米子	宇部	広島	大島
バレーボール男子			松江	徳山	津山	呉				
バレーボール女子			大島	松江	米子 宇部					
柔 道			松江	津山	大島					
硬式野球			宇部	徳山	大島 津山					
テ ニ ス			宇部	徳山	米子 津山					
バスケットボール男子			松江	津山	大島	宇部				
バスケットボール女子			松江	米子	徳山	呉				
剣 道			呉	徳山	松江	広島	大島	米子	宇部	津山
サッカー	A		徳山	広島	呉 津山					
	B		宇部	松江	米子 大島					
バドミントン			徳山	松江	呉 米子					
ソフトテニス			徳山	松江	呉	宇部				
卓 球			広島	米子	宇部 徳山					
水 泳			松江	大島	米子	宇部	徳山	津山	広島	呉
ハンドボール			徳山	米子	津山 松江					

注) 太枠線は全国大会出場予定校

団体種目のない陸上競技, 水泳競技については総合順位とする。



団体戦優勝：剣道部



女子バスケットボール部



ソフトテニス部



バレー部

【個人戦（全国大会出場予定者）】

安全・安心な食堂運営について

陸上競技

西洋フード・コンパスグループ株式会社
 呉高専（寮食堂・学生食堂・売店）
 店長 志磨 徹也

【男子】

800m	1位	C 3	八山 亮太
1500m	3位	M 5	荒瀬 健太
5000m	3位	E 3	青木 勝義
110mH	3位	M 3	中村 和真
4×400mR	2位	E 2	安井 大輔
		E 2	古田 優希
		E 2	村本 瞭真
		E 3	近廣 豊暉
		E 3	松本 直樹
走高跳	1位	M 4	佐々木 充
		M 3	中村 和真
走幅跳	2位	C 3	薙野 智弥
三段跳	1位	C 3	薙野 智弥

剣道

【男子】

(団体)	1位	M 5	大久保憲佑
		M 5	佐藤 将吾
		C 5	屋敷 圭佑
		A 4	武谷 翔樹
		A 4	田邊 誠妃
		A 4	田原 拓巳
		M 3	佐藤 大志
(個人)	3位	M 3	佐藤 大志
		M 4	佐々木 充

ソフトテニス

【男子】

ダブルス	2位	A 4	森川 翔平
		M 4	森上 祥伍
	3位	M 4	向田 直樹
		A 5	二鹿 潤一

昨年4月より食堂・売店の運営をさせていただいております『西洋フード・コンパスグループ株式会社』と申します。

わが社は全国の様々な地域で主に教育関連施設を中心にオフィス・工場の食堂、病院・老人ホームなどのフードサービスなど多方面で食に関する事業をさせていただいている総合外食企業です。

私共は食材の取扱いから、調理・盛り付けに至るまで厳しい食品衛生管理マニュアルを遵守することはもちろんのこと、調理スタッフの健康管理に至るまで細心の注意を払っております。

お子様方の情緒の発達に貢献できるよう「美味しさ」に加え「楽しさ」をも追及していきたいと思っております。

また、保護者の方々からのご意見・ご要望も積極的に取り入れ、より良い食事を提供出来るよう栄養士をはじめ調理師・調理員が一丸となって心をこめた食事を作らせていただいております。

今後とも、よろしくお願い致します。



環境整備工事などが完了しました

総務課

呉高専の学生さんや教職員の皆さんには、長く不便をおかけしていましたが、平成24年3月までに一連の環境整備工事が、無事完了しました。

併せて、アメニティ（カラーアスファルト歩道や緑地整備）や正門の改修も行いました。雰囲気もかなり良くなりました。



以前の中央通路です



現在の図書館前です



現在の中央通路です



現在の電気情報工学科棟前です

一昨年までの呉高専をご存知の皆さんは、雨の日には校内一面が水浸しになって、校内の移動に大変苦勞された記憶があると思います。

平成21年度から23年度にかけてのライフライン再生事業でその問題も完全に解消しました。

現在はどこを通っても水たまりはできません。

正門も開き戸でしたが、幅を拡げて引き戸に改修しました。

呉高専日誌

呉高専ではホームページで「球技大会」、「高専祭」、「駅伝大会」、「高専体育大会」、「ロボコン大会」等校内外の行事や「授業風景」、「寮の様子」、「クラブ活動」など日々の学生生活を日誌風に紹介しています。

<http://www.kure-nct.ac.jp/>

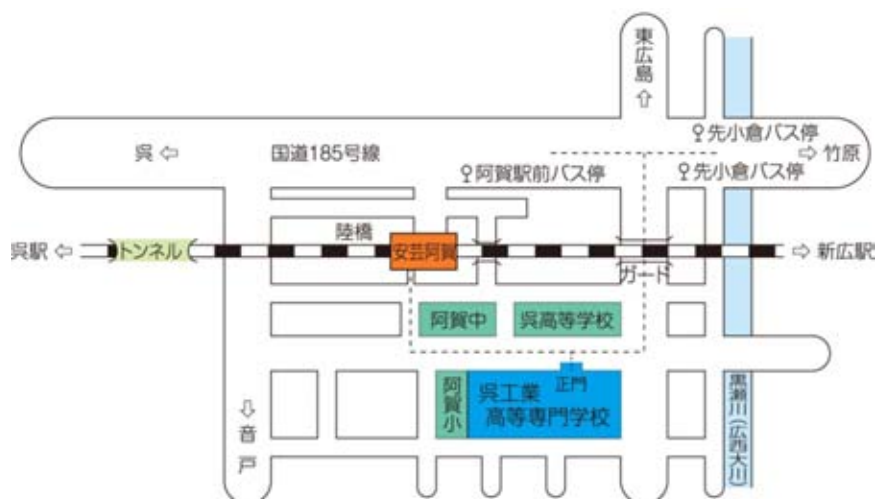
各種行事

学校見学会 平成 24 年 11 月 10 日 (土) 呉工業高等専門学校

呉高専祭 平成 24 年 11 月 10 日 (土), 11 日 (日) 呉工業高等専門学校

文化行事 平成 24 年 12 月 4 日 (火)

-アクセス-



- JR 呉線・安芸阿賀駅下車 南へ徒歩約 7 分
- 広島電鉄バス・先小倉バス停下車 南へ徒歩約 10 分



高専は、高専制度創設50周年にあたり、「進化する高専」を標榜し、科学技術創造立国を担う徳性と創造性が豊かな実践的技術者の育成を通して、地域社会と国際社会の発展に貢献します。

編集・発行

呉工業高等専門学校 広報室

〒737-8506 呉市阿賀南2丁目2-11

TEL 0823-73-8964 E-mail kouhou@kure-nct.ac.jp